



東京女子医科大学学術リポジトリ
<https://twinkle.repo.nii.ac.jp>

テュートリアル課題 熱がさがらない。

著者名	東京女子医科大学
雑誌名	テュートリアル課題
巻	2013
号	B6
発行年	2013-08-22
URL	http://doi.org/10.20780/00032236

2013年度 Block. 6

課 題 No.3

課題名：熱がさがらない。

課題作成者：小児科学

岸崇之



無断で複写・複製・転載すると著作権侵害となることがありますのでご注意ください。

シート1

佐藤裕太くんは4歳の男の子です。いつも元気いっぱいお友達とよく遊びまわっています。2日前から39度の熱がありましたが、食欲はあったので、お母さんは風邪だと思い家にあった解熱剤を使って様子を見ていました。今日は朝から元気がなく、食欲もなく、機嫌も悪くてお母さんも心配になって、かかりつけの近所の小児科に連れて行きました。

シート2

いつもお母さんは妹のあやのちゃんの受診のために病院に行きますが、裕太くんはあまり小児科を受診したことはありませんでした。

先生は今までの発達や成長、今までかかった病気、予防接種歴などをそれまでの記録と母子手帳をみながら確認した後、診察をしました。「少しのどが赤くて、頸部のリンパ節が腫れています。のどに菌がついたせいでしょう。薬を出すので様子を見てください。」と言って、処方箋を書いてくれました。お母さんは「先生、この子は39度なんて高い熱が続いたことはないんです。大丈夫でしょうか？」と心配そうです。

シート3

家に帰ってさっそく処方してもらったお薬を飲ませようとしたのですが、裕太くんは嫌がってなかなか飲まない
のでお母さんは大変苦労しました。次の日になっても39度の熱は下がらず、裕太くんは首を触ると痛がって激
しく泣くようになりました。お母さんがみってみると昨日よりもさらに腫れているのがわかりました。また体に
赤いぶつぶつが出てきているのに気づきました。

お母さんは裕太くんをもう一度同じ小児科に連れて行きました。

先生は、丁寧に診察したあとに「これは大きな病院できちんと治療した方がいいでしょう。」と言い、電話で
大学病院に電話をした後、紹介状を書いてくれました。

紹介先の大学病院は大変混んでいましたが、受付をするとすぐに一般待合室とは違う小さな部屋に案内されそ
こで待つように言われました。

シート4

お母さんは問診票を記入して待っていると間もなく、先生が来ました。いろいろ今までの病気や予防接種の施行状況など、また発熱してからの裕太くんの様子も細かく聞かれました。裕太くんの診察では洋服を脱がせて発疹の状況なども細かくみてくれました。診察が終わると先生は血液検査や入院の必要性を説明してくれました。

入院と聞いてお母さんは裕太くんの病気が重いのだと思い、とても心配になるとともに、近所の人に頼んでみてもらっている妹のあやのちゃんをどうしようなど、色々なことが頭によぎり、とても不安になりました。

シート5

裕太くんの身体所見です。

身長105.0cm、体重16.5kg、頭囲50.5cm、胸囲54.0cm
体温39.6度、心拍数158/分、呼吸数48/分

不機嫌で泣き叫び、話しかけても母にしがみついて返事をしてくれない

頭頸部：眼球結膜発赤あり。口唇乾燥、発赤あり。舌は赤くぶつぶつしている。

咽頭発赤著明。

項部硬直なし、頸部右側に拇指頭大のリンパ節2個、左側も同様のものを2個触れ、触ると痛がる。

胸部：心雑音なし、不整脈なし。呼吸音異常なし。

腹部：平坦、軟、緊張低下あり、肝臓を肋骨弓下鎖骨中線上に1cm触知、脾腫大なし。

皮膚：体幹に紅斑あり。

シート6

裕太くんは入院して、検査の結果などができると医師は川崎病という病気の説明をしてくれました。初めて聞く病名で、また薬もお母さんにはよくわからず、とても不安でした。また、お母さんは妹のあやのちゃんにもうつらないかということも気がかりでした。治療を始めると翌日には36度台に熱が下がり、日に日に他の症状もよくなっていったので、少しずつ安心できるようになりました。

元気になって退院も決まりましたが、定期的に通院して検査が必要と言われたので、今後はどんな心配があるのかと気になっています。